

第18回パネル展「私の中で今、生きているあなた」

I N鳥取

読売新聞2010年5月21日



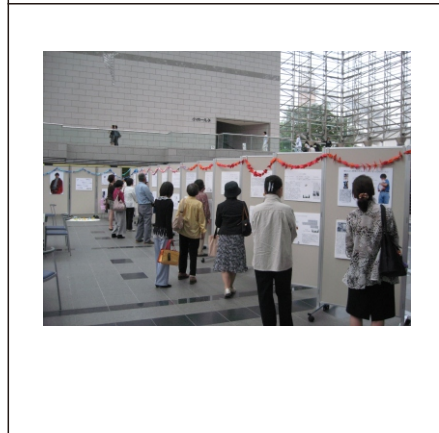
吉川経家像



とりぎん会館



オープニング
セレモニー



折鶴を折る

2010年(平成22年)5月21日(金曜日) 読売新聞

自殺者や遺族の思い知って

きょうから鳥取写真や遺書など展示 23日まで。

全国の自殺者50人の写真や遺書などを紹介するパネル展「私の中で今、生きているあなた」が21日から、鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館で開かれる。遺品などを提供した家族は「自殺者それぞれに大切な人生があったことを知り、自殺を社会問題として考えるきっかけに」と願っている。無写真、死を選ぶことを家

「親以外と気軽に話せない。将来が明日が不安。大阪府枚方市、竹井大地さん、19歳だった。2005年、ノートに書き残して入水した。中学校時代に不登校となり、家に閉じこもりがちだったという。」

自殺者数は1998年以降、全国で毎年3万人を超え、昨年は3万2845人(県内166人)に上った。展示に立ち会ったため20日に会場を訪れた母の京子さん(61)は「同じ年頃の男性を見ると、今でも息子を思い出す。3万という数字の背後にある一人ひとりの生や遺族の苦悩に思いをはせてほしい」と話していた。

23日午後1時30分から、同会館で自死遺族が体験を語るシンポジウムも開かれる。パネル展は午前10時～午後6時(23日は午後5時)。問い合わせはコスモスの会(090・3172・2111)。

族にわたる遺書などのパネル100点が掲げられていた。

日本海新聞2010年5月21日

自死遺族の叫び 伝えるパネル展

鳥取23日シンポジウム

過労や職場でのストレスなどで心を病み、自殺した人の写真や遺書、遺族の手記などを紹介するパネル展「私の中で今、生きているあなた」(新日本新聞社など後援)が21日まで、入場無料。とっとり自死遺族自助グループ「コスモス」の共催。全国で巡回展示しており、今回で18回目という。写真からは愛する者や失った遺族たちの悲痛な心の叫びが伝わってくる。

最終日には、自死遺族が語るシンポジウムを開催。代表の厨子さん、同市在住の江府町が、職場の配置転換に遭い、うつ病になって自殺した夫(当時56)の体験を語るほか、20歳の息子が犯罪に巻き込まれて自殺した足立昇さんが「江府町」が遺族の無念を話す。

の会」(厨子麗子代表世話人が初めて企画。県内の遺族が公開した生前の写真や手記も並び、主催者では「社会の問題として一緒に考えてほしい」と呼び掛けている。

パネル展は、大阪市のNPO「働く者のメンタルヘルス相談室」の協力で企画。会場には、幼い子どもと遊園地で遊んだり、愛犬を抱いたりする写真、死を選ぶことを家